

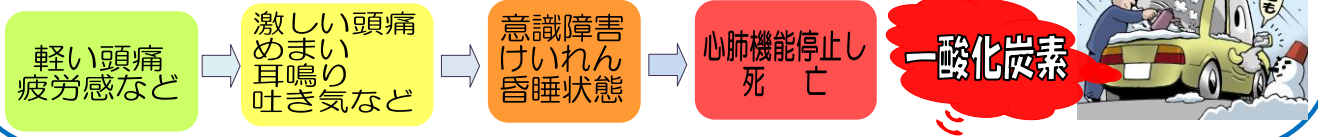
車が雪で埋まったら怖い!

～一酸化炭素中毒の危険性Q & A～

Q 一酸化炭素中毒とは?

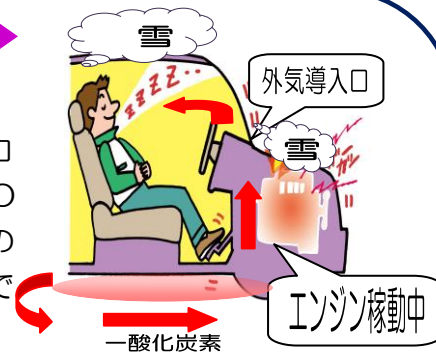
A エンジンの排気ガスには有毒な一酸化炭素(CO)が含まれています。一酸化炭素は空気よりも軽く、無色・無臭・無刺激の気体のため、発生に気付かないことが多く、危険の察知が非常に難しい**有毒ガス**です。

一酸化炭素は、吸い込むと血液中のヘモグロビンと結合し、血液の酸素運搬能力を阻害するため、身体が酸素欠乏状態となります。中毒症状は、一酸化炭素の濃度と吸引量によって異なりますが、**最悪の場合は、心肺機能が停止し、死に至ります。**



Q 車が雪で埋まると...?

A JAF によるユーザーテストでは、車の周囲を埋めるだけでなく、ボンネットの上まで雪を被せた状態（ワイパー下の外気取り入れ口を塞いだ状態）でエンジンをかけ、空調を外気導入にして車内のCO濃度を検証したところ、排ガスが車体の下側に溜まり、エアコンの外気導入口を伝って排ガスが車内に吸い込まれていくことが確認できました。



その濃度は身体への影響が「**3時間ほどで致死**」

という非常に危険な状態にあることを意味します。

また、空調を内気循環にしても車体の隙間等から排ガスが車内に入る危険性があります。



Q 一酸化炭素中毒とならないためには?

A マフラーの周辺を定期的に除雪することが重要です。

天候や状況によって短時間のうちに車が雪に深く埋まることもあります。

降雪時に車内にとどまる際には、できるだけエンジンを切るようにしましょう。

また、冬場は万が一に備えて除雪用のスコップや防寒着、毛布などを車内に用意しておくといいです。



チェックポイント

1 排気ガス中の有毒な一酸化炭素を吸い込むと、最悪の場合は死に至る。

2 一酸化炭素中毒防止には、マフラー周辺を定期的に除雪するのが重要。

3 降雪時は、できるだけエンジンを切り、毛布やスコップ等の常備も大切。